



## 安倍総理 改憲で 共闘を図る所信表明

**所信表明** 総選挙で「圧勝」した安倍総理。8割が改憲派ともいわれる新国会。しかし数で押す危険性は身に染みしています。所信表明では「与野党の枠を超えて建設的な政策論議を行い、ともに前に進んでいこう。困難な課題に答えを出していく。そうした努力の中で憲法改正の議論も前に進むことができる。そう確信している」とのべました。

公明党は、いま改憲を打ち出すことに積極的ではないが、加憲ならいいという。維新の会などに加え、新たに希望の党が改憲に積極的な動きを見せていることなどから、こうした自民党以外を巻き込んで安倍独裁の批判をかわしたいともいわれます。

森友・加計問題には触れず、時間も今までになく短く、野党側は「中身がない」「空疎な」所信表明と批判していますが、改憲への意欲は露わです。

**日本会議**安倍首相の知恵袋として改憲勢力をリードする右翼団体日本会議の20周年大会が行われました。

安倍首相は、自民党総裁としてメッセージを寄せ、「国民に責任を持つ政党として憲法審査会における具体的議論をリードし、その歴史的使命を果たしていく」と誓いを述べました。

自民党憲法改正推進本部顧問の下村博文元文科相は「来年の通常国会にはわが党として憲法改正発議ができ、憲法審査会で（改憲案を）提案できるよう頑張る」と述べ、希望の党や維新の会がそれぞれ決意を表明。日本会議地方議員連盟の松田良昭会長は「九条の会や護憲派には負けられない」と憲法を守る国民の運動には敵意をあらわにし、大会宣言では「いよいよ我々は、憲法改正実現のための正念場を迎えている」と謳い、彼らの決意のほどを示しています。

正に正念場を迎えています。がんばりましょう。

九条の会・流山おたかの森駅宣伝は

12月9日(土)15:30~16:30

## 米軍本土移駐 沖縄と本土の温度差

沖縄での米軍基地撤去の要求が強まる中、政府は普天間基地の「移転」として辺野古の新基地を建設するとともに、「沖縄の負担軽減」の名のもとに米軍の本土への移駐を進めている。岩国、三沢、習志野など各地にオスプレイや空中給油機まで配備され、F35戦闘機まで来ている。これはステルス戦闘機でレーダーにも映らない最新鋭機。自衛隊も導入することになっているものだ。

沖縄の米軍基地撤去の要求には様々な側面があります。沖縄の翁長知事が強調しているように沖縄の米軍基地に県民が同意したことはない。米軍が占領し、住民を強制収容所に入れて家を壊し、



火をかけ、国際法にも違反して違法に奪い取った土地だ。そこにさらに日本本土から米軍が移動してきた。なぜなら、本土においても砂川などで激しく戦った結果、立川基地返還などにはつながったものの、米軍基地が沖縄にますます集中することになってしまったのだ。

それを政府に押し付けられただけでなく、ヤマトンチュウ（本土の日本人）に犠牲を強いられていると感じている沖縄の人たちも少なくない。

いま沖縄でぎりぎりの闘いが続いている。私たちにできることはなんだろう。沖縄に連帯して本土でできる運動を広げることではないだろうか。

安倍改憲NO! 「全国市民アクション」  
3000万人署名を広げましょう  
「九条の会・流山」では署名用紙を用意しています。電話などでご連絡ください。

# 「福田村事件」を知っていますか？ その4

関東大震災後、政府および民衆による朝鮮人虐殺が始まります。怪しいと見た人物には、「いろは」を言わせたり、朝鮮の人が発音しにくい「15円50銭」と言わせたりして、日本人との選別に血眼になりました。そして、何のいわれもなく6000人以上とも言われる人々が亡き者にされました。

なぜこのような蛮行に及んだのかと疑問ですが、ちょうど、植民地時代の出来事であり、時代は米騒動や労働運動などの、民衆闘争があちこちに起こり始めた折でもありました。朝鮮では、激しい独立運動が展開され、日本はそれを武力で抑え込んでいました。そういう疲しさがあるため、社会主義者や朝鮮人が、混乱に乗じてどんな行動に出るか、恐れていました。

したがって、震災のときのデマも官憲や国粋主義者によって、意図的に流されたという証言も多く出ています。このどさくさのなかで、南葛飾労働組合の労働者10名、中国人留学生・王希天、社会主義者・大杉栄や妻伊藤野枝らも殺されています。

佐野真一著『甘粕正 乱心の曠野』によれば、たまたまいっしょにいて殺された7歳の少年の墓石には、「犬どもに虐殺サル」という文字が、深々と刻まれているそうです。これら以外に、朝鮮人と間違えられて被害に遭った人たちもいました。 辻野弥生（つづく）

☆放射性廃棄物最終処分場は見通しが無い  
☆事故によって発生した瓦礫などをはじめ、飛び散った放射能は拡散したまま。居住地や耕地などでは一定の除染がされたものの、いまだに少し外れると放射能の影響のある地域に囲まれている。

☆除染によって発生した廃棄物は焼却などで減量化を図っているものの福島県をはじめ11都県で20万トン存在し、行き場がない。

効率よく処理するためには集約した方がいいのは当然だが、自分のところが苦しんでいるのに、自分の責任でもない汚染物質をわざわざ引き受けるといことは住民が納得しない。それにもかかわらず、政府は地元自治体で埋め立て処分場を用意せよという。しかし自治体住民は反対だし、選定したとしてもそこまで輸送する沿線の自治体も同意しない。

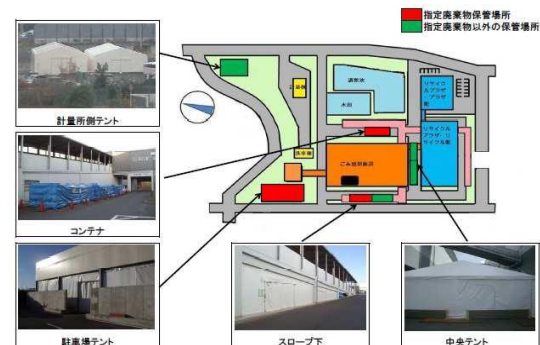


☆原発そのものも危機的だ。事故を起こした上記福島原発は汚染水のタンクに取り囲まれて立錐の余地もない感じ。凍土壁が稼働始めたというが、巨大なタンクが1000基。いつ劣化してタンクが壊れ始めるかわからない。

事故の補償もどんどん打ち切られているが、人々の音の生活や生業が戻る見通しも立たないのだ。

☆全国の50基を超える原発は今後次々寿命を迎えるが、廃炉作業の見通しはつかない。

☆流山市でも放射能汚染物質の処理は見通しが立たない。未だに剪定枝は危険物として収集。放射性焼却灰の保管にはクリーセンターの一角を先のあてもなく指定廃棄物として占拠中だ。（下記の図参照）



## 原発事故処理終らぬまま次々再稼働

**大飯原発再稼働** 福井県の西川知事は関西電力大飯原発3、4号機の再稼働に同意しました。福井県高浜原発に続けて2度目の再稼働合意です。

原子力規制委員会が新規規制基準に適合したと認定したことを受けたものですが、この基準なるものは委員会自身が「安全性を保障するものではない」ことを認めているという無責任なものであり、事故の際の住民の避難など眼中にないという基準です。

**裁判で勝訴** そもそもこの原発に反対して住民が起こした裁判で名古屋地裁は原発の本質的な危険を認め「原発を運転してはならない」と判決し、控訴審で係争中です。岬にある原発が万一事故の際は住民の逃げ場はないというのに、知事は再稼働を認めたのです。

### 原発は今どうなっている？

福島原発事故の後始末は進んでいない。

~~~~~  
カンパはこちらの郵便振替口座へ

00130 - 5 - 464735 口座名 九条の会流山